

# 語ってみた

## ～これからの私たちとハママツのこと～

浜松で生まれ育った外国にルーツを持つ若者が社会で活躍しています。多様な背景を持つ彼らは社会をどう見ているのでしょうか。学生時代のエピソードやHICEとの関わり、これからの浜松へのメッセージを語ってもらいました。



**三宅エベルトン**  
Everton Miyake

ルーツのある国：ブラジル・ペルー・日本  
父親は日系ブラジル人、母親は日系ペルー人（ブラジルのルーツも持つ）  
1993年群馬県伊勢崎市生まれ。日本の幼稚園を卒園後、小学校3年生まで自宅で教育を受ける。群馬県にある外国人学校に入り、9歳のときに両親とブラジルへ渡る。11歳のときに、浜松に再来日。浜松の外国人学校に通い、中等教育過程を修了。その後1年間、浜松カトリック教会の教室と、浜松市ジュントス布機教室に通う。日本語能力試験N1合格、中学校卒業認定試験合格後、市内の公立高校に入学。卒業後、静岡文化芸術大学に入学し国際文化を専攻。現在、市内の民間会社に勤務。

**宮城ユカリ**  
Yukari Miyagi

ルーツのある国：ブラジル・日本  
祖父父母がブラジルに入植した日本人（沖縄出身）  
1997年ブラジル、サンパウロ生まれ。2005年に来日して浜松に。8才の時、公立小学校に2年生から編入。中学校を卒業後、浜松市立高等学校のインターナショナルクラスに入学。現在、静岡文化芸術大学2年生。学内でのイベント企画や学外で外国人児童生徒への学習支援、高校での出前ワークショップ「出張 COLORS」に携わる。姉のユキミさんがCOLORS立ち上げメンバーのひとりであり、高校時代からCOLORSに所属。

**長井 健太**  
Kenta Nagai

ルーツのある国：フィリピン・日本  
父親は日本人、母親はフィリピン人  
1994年浜松市生まれ。2歳のときに母親とフィリピンへ渡る。15歳のときに再来日して浜松に。公立中学校に3年生から編入。公立高校卒業後は専門学校に通い、公務員試験に合格。専門学校1年生のときにHICE事務所に立ち寄ったことがきっかけで、浜松市の状況やHICEの取り組みを知った。浜松市外国人学習支援センターの日本語ボランティア養成講座を修了。フィリピンナガイサでボランティア活動を行いながら同胞を支援している。現在、浜松市役所に勤務。

**鈴木ステラ**  
Stela Suzuki

ルーツのある国：フィリピン・日本  
父親は日本人、母親はフィリピン人  
1994年フィリピン、ラグナ市生まれ。13歳のときに来日して浜松に。公立中学校に1年生から編入。高校卒業程度認定試験合格後、浜松学院大学に入学。在学中にインターナショナルスクールを立ち上げ、初代校長に就任。外国にルーツを持つ子供たちの支援に携わる。その他、「子ども食堂」の企画運営もこなす。子供の貧困に関心がある。現在、同大学の3年生。地域共創学科でマネジメントを専攻。

### 長井さんの学生時代

—長井さんは小学校・中学校とフィリピンで過ごしたんですね？

**長井**（以下長） 両親がずっと日本にいたので、フィリピンでおばあちゃんや親戚と暮らしていました。学校は私立でした。授業料は高かったようすけど。

**ステラ**（以下ス） えーっ。もうお坊ちゃんて感じ。

**長** 全然そんなことはない（笑）。  
**エベ**（以下エ） ブラジルも公立と私立だったら、高校までは私立の方が良いんです。環境とかいろいろ。大学からは公立の方が良い。私はずっと公立でしたが。

—子供のときは勉強は好きでしたか？

**長** 得意でも不得意でもなくて。まあ最低限テストで出るところは勉強しようって感じでしたね。そんな優秀って言うわけでもなく、熱心っていうわけでもないですけど。

—日本に来てからはかなり頑張ったんじゃないですか？

**長** そうですね。日本に来てからは今のやり方だとやばいって思いましたね。とにかく日本語がわからないと何もできないから。高校の3年間で自分の日本語に対してそこまで自信が持てなかったんです。大学行くまでの学力も無くて、それでも続けられるところというところで専門学校に決まりました。

専門に行って良かった。一番の転機ですね。

—どうやって日本語を学びましたか？

**長** 漫画です（笑）。兄がめっちゃ漫画持っていて。妹も漫画めっちゃ買っていて、少女漫画も読んでました。「ひよ恋」とか。ひらがなも振ってあるし、絵もあるの。文だけよりも良い勉強になります。

### ステラさんの場合

**ス** 電子辞書をすぐに親に買ってもらって、気になる言葉はすぐ調べていました。一番記憶に残ってるのが「ハンサム」という言葉。当時の中学校の先生に使おうと思って辞書を引いたら出てきたのが「ハンサム」っていうカタカナそのまんまと、その下に「色男」って。先生に「先生、色男、色男」って言ったら笑われて（笑）。そういう思い出があります。

**ス** それから、中学生のとき、ギャルになりたくてしようがなかったんですよ（笑）。つげまつ毛とか内股が私の中で「日本人」のイメージ。必死に内股で走っていました。中学生だとスカートが短くて靴下がごうで、とか、サーフ系の女の子が流行っていて、とか、すごいポップなカラーで金髪にしている、とか、そういうのが日本人のイメージとしてあった。だから取り入れたらいいじゃないですか。そういうのに憧れていた。

—学校の友達は外国人の子が多かったのですか？それとも日本人の子？

**ス** 自分の周りにはあまり外国人の子はいなかったです。うちの中学には私一人しかなくて。たまたま留学に行っていた子がいたので、先生がその子と同じクラスにしてくれていたんだと思います。

—英語がわかるから？

**ス** そうなんです。それでいろいろ、変なことも、教えてくれましたね。今流行りの歌があるよ、って言われて、教えてって言ったらその歌が「ふっけふけふけふけふけしらみ」っていう（笑）。それも先生の前で「先生流行の歌知ってる？」って歌って、その後その子が呼び出しくらって（笑）。全員 笑

**ス** すっごい印象に残ってますね。

### ユカリさんの思い出

—ユカリさんは小学校2年生のときに来日しましたよね、どうでしたか？

**ユカリ**（以下ユ） 小学校に行ったら、算数でブラジルですでに習ったことをやっていたんです。ブラジルだと掛け算も1年生でやっていて、でも日本に来たらまだ足し算の繰り上げとかをやっていた。わかるのに、発表しなかったの。前に出て何も言えない、ってなってしまうって、しょんぼりしちゃったんです。図工も好きでしたね。あと4年生が一番楽しかったですね。

—なんで4年生のときが楽しかったんですか？

**ユ** すっごい良いクラスで、先生も良い人で、みんな仲良くて。小学生って大体親友がいるじゃないですか。4年生のときは唯一みんなと友達っていう感じで、特定の友達じゃなくてみんな好きだった。いいことをしたらシールももらえて、帰りの会で「何々さんが良いことしました」って、言われた人も発表した人ももらえる。そういう特別なことをする先生で、そのクラス全体の雰囲気も良かった。

当時の自分の日記が見つかったんですけど、最初はポルトガル語で書いてるのにならぬ間に日本語が混ざってきて、そしていつの間にか全部日本語になっている。今も日記を書こうと思ったら日本語なんです。ポルトガル語の方が時間かかるかも。



ユカリさんが小学校の時に書いた「自分史」